

## ヤングケアラーに関する生活状況調査の結果について

令和6年10月から令和7年1月まで、子どもを対象とした「ヤングケアラーに関する生活状況調査」を実施しましたので、主な結果を報告します。

### 1 調査の概要

#### (1) 目的

本来、大人が担うと想定される家事や家族の世話などを日常的に行っている「ヤングケアラー」の実態をより正確に把握し、ヤングケアラーの早期発見や適切な支援につながる方策等を検討するため、家族の世話の状況等家庭での生活実態についてアンケート調査を実施した。

#### (2) 調査期間

令和6年10月1日から令和7年1月31日まで

#### (3) 対象

市内小学校5年生から市内中学校3年生までの児童生徒、鳥取県西部地区高等学校及び国立米子工業高等専門学校の生徒

#### (4) 実施方法

- ア 小中学生 児童生徒本人が学校で使用しているタブレットで回答
- イ 高校生等 学校で配布されたアンケートフォームの二次元コードを、生徒本人が読み取り回答

#### (5) 回答状況

区分	対象校数	対象人数	回答数	回答率
小学生	23校	2,635人	2,323人	88.2%
中学生	12校	4,082人	3,476人	85.2%
高校生等	13校	6,584人	2,745人	41.7%
合計	48校	13,301人	8,544人	64.2%

※対象人数は、小中学校及び高校は令和6年5月1日時点の数、高専は令和6年4月5日時点の数

※高校生等は、米子市外在住者も含む

### 2 主な結果

#### (1) 「ヤングケアラー」の認知度

区分	回答数	知っている・聞いたことがある	知らない・聞いたことがない
小学生	2,323人	1,322人(56.9%)	1,001人(43.1%)
中学生	3,476人	2,318人(66.7%)	1,158人(33.3%)
高校生等	2,745人	1,900人(69.2%)	845人(30.8%)
合計	8,544人	5,540人(64.8%)	3,004人(35.2%)

#### (2) 世話をしている家族がいるか

区分	回答数	いる	いない
小学生	2,323人	143人(6.2%)	2,180人(93.8%)
中学生	3,476人	126人(3.6%)	3,350人(96.4%)
高校生等	2,745人	147人(5.4%)	2,598人(94.6%)
合計	8,544人	416人(4.9%)	8,128人(95.1%)

(3) 世話をして「つらい」と感じるときがあるか（世話「有」の該当者のみ回答）

選択肢	小学生	中学生	高校生等	合計
全くない	46人 (32.1%)	40人(31.7%)	44人(29.9%)	130人(31.3%)
あまりない	35人 (24.5%)	26人(20.6%)	34人(23.1%)	95人(22.8%)
時々ある	27人 (18.9%)	33人(26.2%)	39人(26.5%)	99人(23.8%)
いつもある	3人(2.1%)	6人(4.8%)	13人(8.9%)	22人(5.3%)
わからない	32人 (22.4%)	21人(16.7%)	17人(11.6%)	70人(16.8%)
合計	143人	126人	147人	416人

(4) 家族のことや「世話」の悩みを誰かに話したことがあるか（世話「有」の該当者のみ回答）

選択肢	小学生	中学生	高校生等	合計
ある	39人(27.3%)	54人(42.9%)	48人(32.7%)	141人(33.9%)
ない	104人(72.7%)	72人(57.1%)	99人(67.3%)	275人(66.1%)
合計	143人	126人	147人	416人

(5) まわりの大人にしてほしいこと（世話「有」の該当者の主な回答）

- ・自分のことについて話を聞いてほしい（小学生63人(1位)、中学生46人(1位)、高校生等41人(1位)）
- ・勉強を教えてほしい（小学生38人(3位)、中学生28人(2位)、高校生等23人(4位)）※高校生は「進学や進路等将来のことについて話を聞いてほしい」が2位
- ・自由に使える時間がほしい（小学生28人(2位)、中学生15人(3位)、高校生等29人(3位)）
- ・安心できる居場所がほしい（小学生16人(4位)、中学生5人(6位)、高校生等20人(5位)）

### 3 考察

「将来の進路や悩みを聞いてほしい」、「相談できる場所がほしい」といった精神的サポートを求める声が多かった。また、学業に関する支援を必要としている回答や、家庭の事情等に圧倒され個人的な時間がほしいという希望が多く、個々の事情に応じた支援が必要であると考え。さらには、安心できる居場所を求める声も多く、こどもが時間的、精神的余裕を必要としていることがわかった。

### 4 今後の支援の方向性

調査結果から見てきた現状と課題に鑑み、①相談支援、②学習支援、③居場所支援を中心に個々の事情に応じた更なるサポート体制の充実を図るとともに、引き続き、ヤングケアラーの正しい理解と周知啓発を行う。